大東市埋蔵文化財調査報告第 36 集

野崎条里遺跡 I

――大阪東部農業協同組合本店建設（擁壁設置工事）に伴う発掘調査報告書――

２０１３年１０月
大東市教育委員会

1．第２遺構面　水田跡

2．東壁土層断面

序　文

大阪府の北東部に所在する大東市は、東部に飯盛山を含む生駒山系が南北に連なり、西部の低地では古くは河内湖、江戸時代の中頃までは深野池と呼ばれた大きな池があり、古来より山や池などに彩られた豊かな自然環境を有していました。

そのような中、わたしたちの先人達は山や水の幸を豊富に享受しながら、個性豊かな歴史や文化を育み、現在に至りましても、その息吹を多くの神社や寺院に感じることができ、また活動の痕跡を具体的に残している遺跡や古文書、さらに絵画、彫刻、地域固有の伝統的な行事など、様々な文化財が数多く残されています。

今回、報告する野崎条里遺跡は、平安時代より人々の往来が盛んになる信仰の道とも言える東高野街道周辺に広がる、弥生時代から中世にかけての遺跡として知られ、古墳時代の集落跡など、徐々にではありますが、その実態について明らかになりつつあります。

今回の発掘調査では、この遺跡が西側にさらに広がることが確認されるとともに、水田などの生産域を確認するなど、その全体の様相をうかがうことができ、大東市の歴史を知るうえで、貴重な成果を得ることができたと思われます。

今後、これらの成果につきましては市民の皆様に還元できるよう活用、公開していくとともに、本報告書が本市の歴史を知る基礎資料となり、歴史や文化財に対する理解を深めるための一助となれば幸いに存じます。

また教育委員会では、多くの先人より受け継いできました貴重な文化財を大切に保存・活用し、未来を担うこれからの世代にも引き継いでいく所存でありますので、市民の皆様方におかれましては今後とも本市の文化財保護行政にご理解、ご協力賜りますよう心よりお願い申し上げます。

最後になりましたが、発掘調査の実施にあたり多大なご理解、ご協力を賜りました大阪東部農業協同組合をはじめ、関係機関・各位に厚くお礼申し上げます。

平成２５年１０月

大東市教育委員会

教育長　亀岡　治義

例　言

1．本書は大阪府大東市野崎４丁目１５８－１、３、１６１－２番地における大阪東部農業協同組合本店建設に附帯する擁壁工事に伴い実施した、野崎条里遺跡発掘調査（略号：ＮＺＪ９２－１）の報告書である。

2．発掘調査業務については大阪東部農業協同組合（当時組合長理事 向井恒太郎）より依頼を受け、大東市教育委員会が実施し、その係る費用については同組合がこれを負担した。

3．調査面積は１３３．４㎡で、現地調査は平成４年８月３日から同年９月４日にかけて実施した。

4．発掘調査業務は大東市教育委員会歴史民俗資料館、中逵健一（現、生涯学習課）が担当した。

5．本書における方位は磁北を示し、水準値はT.P. 値（東京湾平均海面値）を用いている。

6．発掘調査業務における現地調査、整理作業等については下記の方々の参加を得た。
（敬称略、五十音順）
大谷聡、小矢田誠司、谷崎光子、樋口里美、古川佳和、宮田八重子、森石千枝子、山田芳樹

7．本書の執筆および編集は担当者が行い、データー作成、遺物写真撮影および印刷、製本については教育委員会の監督指示のもと、株式会社地域文化財研究所に委託した。

8．本調査に関わる出土遺物及び写真・実測図等の記録資料は、大東市教育委員会において保管している。

本 文 目 次

序文
例言
第１章　遺跡の歴史的環境 …… 1
第２章　調査に至る経緯 …… 4
第３章　調査成果 …… 5
　第１節　基本層序 …… 5
　第２節　遺構と遺物 …… 6
第４章　まとめ …… 9
報告書抄録

挿 図 目 次

第１図　大東市位置図 …… 1
第２図　周辺遺跡分布図 …… 3
第３図　調査地位置図 …… 4
第４図　調査区（擁壁部分）位置図 …… 4
第５図　東壁土層断面図 …… 5
第６図　調査区区割図 …… 6
第７図　第１遺構面全体図 …… 7
第８図　第２遺構面全体図 …… 7
第９図　ＳＤ－１０１平・断面図 …… 8
第10図　ＳＤ－１０２平・断面図 …… 8
第11図　ＳＤ－２０１平・断面図 …… 8
第12図　ＳＫ－２０１平・断面図 …… 8
第13図　出土遺物実測図 …… 8

表 目 次

第１表　検出遺構一覧表 …… 10
第２表　出土遺物一覧表 …… 11

図 版 目 次

巻頭カラー図版１

１．第２遺構面　水田跡

２．東壁土層断面

図版１　遺構（１）

１．第１遺構面全景（南より）

２．第１遺構面北側（南東より）

図版２　遺構（２）

１．ＳＤ－１０１（南より）

２．ＳＤ－１０２（南より）

３．ＮＲ－１０１（南より）

図版３　遺構（３）

１．第２遺構面全景（南より）

２．第２遺構面全景（北より）

図版４　遺構（４）

１．ＳＤ－２０１（南より）

２．ＳＫ－２０１（北より）

３．水田跡（南より）

図版５　遺構（５）

１．畦畔（ＳＮ－２０２、２０３）

２．畦畔（ＳＮ－２０５）

３．東壁土層断面

図版６　出土遺物

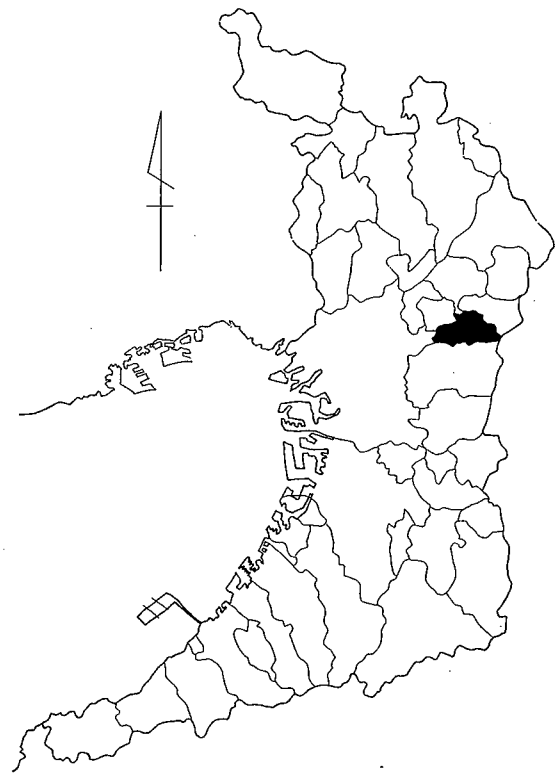
第１章　遺跡の歴史的環境

野崎条里遺跡は、平成元年に専用住宅建設の際に新たに発見された遺跡で、野崎３丁目一帯にかけて所在する。

これまでの調査では、東高野街道周辺において中世の耕作跡や古墳時代の集落跡、古墳時代の須恵器などの完形品を多く含んだ井戸状の土坑、弥生土器などが確認されており、弥生時代から中世にかけての集落跡を中心とした南北約 150 m、東西約 170 mの範囲を持つ複合遺跡であると考えられている。

地理的には、扇状地からその西方に広がる沖積地にかけて広がるもので、以下、市域の遺跡を中心としたその歴史的概要を述べる。

旧石器時代での具体的な遺跡は確認されておらず、中垣内遺跡から昭和 34 年の東大阪変電所建設時にナイフ形石器が出土しているのみである。



第１図　大東市位置図

縄文時代においては、唯一、中垣内遺跡で中期後半の土坑状の遺構と推測されるものが確認されている。しかし、大半においてそのほとんどが扇状地から山地にかけて立地する遺跡の包含層等からの出土で、北条遺跡、宮谷古墳群で草創期の有舌尖頭器などが出土、採集されている他、鍋田川遺跡およびその周辺の遺跡から中～晩期を中心とした土器の出土が確認される状況である。しかし、磨耗を受けず比較的残りの良好な土器の出土も多いことから扇状地から山地にかけて集落跡が存在していたものと考えられる。特に、寺川浜遺跡からは大洞ＢＣ式の深鉢が出土しており、東北地方との交流を考える上で注目されるものである。

弥生時代に至り、市域においても遺構を伴う遺跡が多数確認されるようになり、前～中期の集落跡が確認された中垣内遺跡、北条西遺跡、後期の竪穴住居を検出した北条遺跡などがある。また、中垣内遺跡の東に位置する鍋田川遺跡では後期のまとまった遺物が出土しており、寺川浜遺跡では後期から庄内期の水田跡が確認されていることから後期の集落の存在についても疑いのないところである。

古墳時代では、当時、河内湖東岸に位置していたことから多数の集落が営まれるようになり、代表的なものとして鍋田川遺跡、北新町遺跡、メノコ遺跡などが挙げられ、特徴的な様相としては初期須恵器、韓式系土器、鳥足文を施した陶質土器の出土など、渡来人の影響の強い遺物が目立ち、先に述べた河内湖東岸という地理的環境が大きく影響しているものと思われる。

古墳についても多くの古墳、古墳群が周知されてはいるものの、詳細が明らかなものは少ないが、城ヶ谷遺跡、北条遺跡、宮谷古墳群、堂山古墳群（１～７号墳）などで調査が実施されている。特に中期に属する堂山１号墳では、三角板皮綴短甲、衝角付冑、鉄刀、鉄鏃など多量の鉄製武器、

武具類やこの地域の特性を考えるうえで特徴的な初期須恵器や円筒埴輪などが出土していることから、当時の有力な首長墓と考えられ、当時の北河内の社会構造を考えるうえで欠かせない古墳である。[註(1)]

古代では北新町遺跡、寺川遺跡、元粉遺跡などの集落跡が挙げられ、特に北新町遺跡では人面墨書土器、また寺川遺跡では官衙(かんが)的集落の存在を想定させる「白麻呂」と墨書された土器の出土や、直径約１ｍの木を刳(く)り貫いた井筒や、河川跡からはウマの骨一体分などが出土し、かなり通常の集落とは異質な様相を示している。

また、その存在については確実視されてはいるものの不明な点が多い古代寺院については、寺川浜遺跡、鍋田川遺跡において、白鳳から奈良時代にかけての軒丸瓦(のきまる)の出土が唯一のもので、現状では今後の調査に期待するところである。

中世では、北新町遺跡で 12 ～ 13 世紀を中心とした集落跡、御領遺跡で 13 ～ 14 世紀の集落跡が確認されており、市域における中世の様相も明らかにされている。

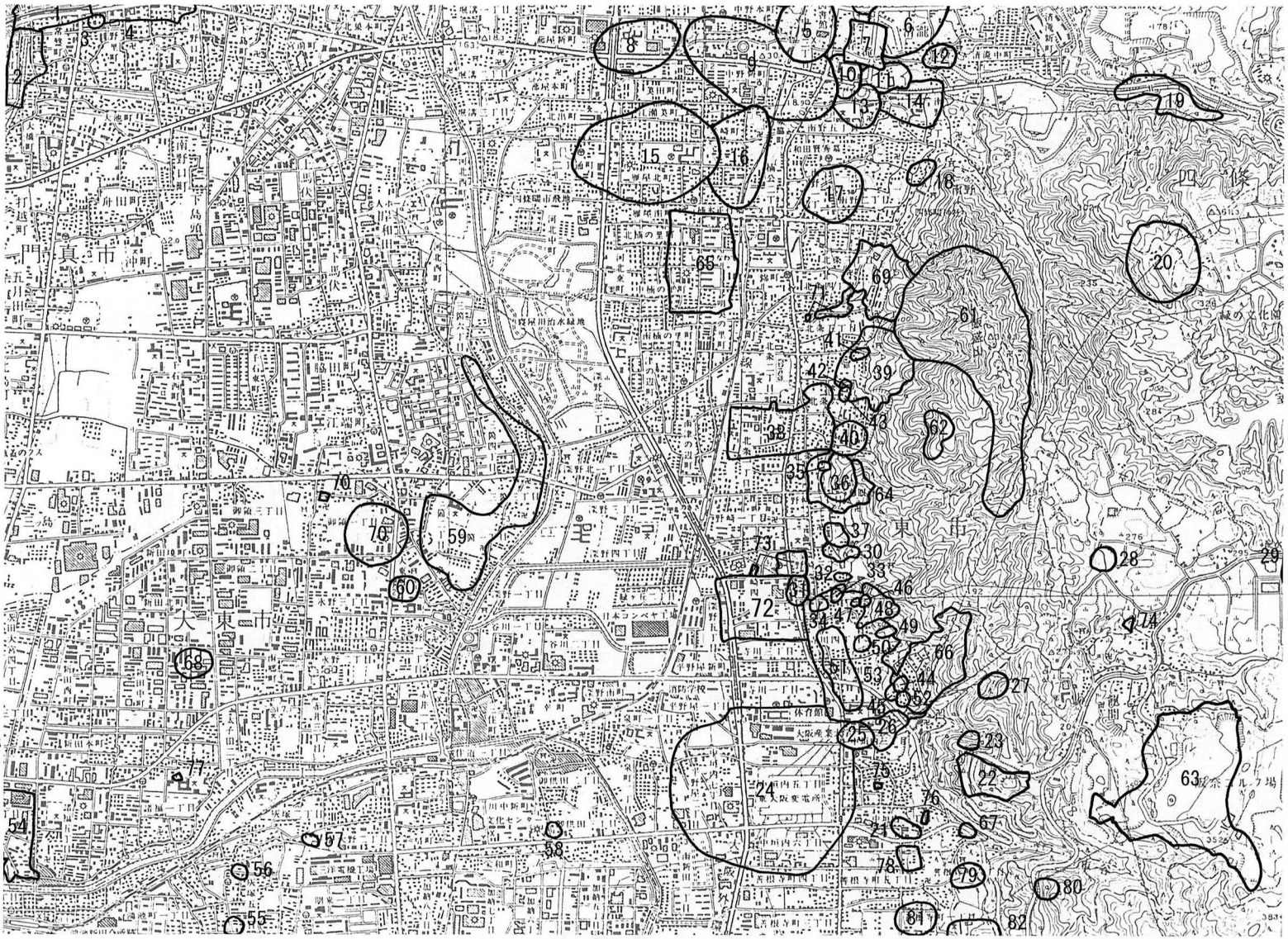
また城跡では戦国武将、三好長慶の飯盛城、その支城とされる野崎城、キリシタンで有名な三箇頼照（洗礼名、サンチョ）の三箇城などが知られており、飯盛城においては発掘調査に至る機会は少なく、これまでも狭小な面積での実施にとどまっているが、平成２３年度から本格的な縄張調査を実施しており、その基礎資料については明らかになっている。

近世に至ると、山間部では大阪城築城における石垣用石材の供給地であった石切場跡があり、また低地部分においては、宝永元（１７０４）年の大和川付け替えに伴い、旧大和川や深野池の新田開発が盛んになるが、それら新田の管理施設であった会所の一つとして、平野屋新田会所跡があり、その歴史的重要性において米蔵（千石蔵）、道具蔵、舟着場などについては部分保存されている。

註

（1）平成１２年度には、１号墳からの出土遺物一括が府指定文化財に、また平成２３年度には堂山古墳群１～７号墳を市史跡に指定し、保存、整備、活用している。

1 常称寺遺跡
2 横地遺跡
3 大和田遺跡
4 宮野遺跡
5 奈良井遺跡
6 清滝古墳群
7 正法寺跡
8 鎌田遺跡
9 中野遺跡
10 四條畷小学校内遺跡
11 大上遺跡
12 国中神社内遺跡
13 木間池北方遺跡
14 城遺跡
15 雁屋遺跡
16 南野米崎遺跡
17 南野遺跡
18 近世墓地
19 上清滝遺跡
20 長谷遺跡
21 若宮遺跡
22 国見高地性遺跡
23 七ッ廻り古墳
24 中垣内遺跡
25 元粉遺跡
26 鍋田川遺跡
27 太鼓山遺跡
28 竜間ハンサカ遺跡
29 竜間遺跡
30 福運寺遺跡
31 メノコ遺跡
32 峯垣内遺跡
33 市水道寺川配水場古墳
34 瓦堂遺跡
35 ヤタ山古墳
36 野崎遺跡
37 福蓮寺古墳
38 北条西遺跡
39 宮谷古墳群
40 大将軍古墳
41 北条古墳
42 北条南古墳
43 北条遺跡
44 城の越上の段古墳
45 城の越古墳
46 堂山上遺跡
47 堂山下古墳
48 堂山古墳群
49 六地蔵古墳
50 十林寺古墳
51 寺川古墳群
52 大谷神社古墳
53 寺川遺跡
54 西諸福遺跡
55 灰塚遺跡
56 灰塚堂田遺跡
57 水道局
浄水場遺跡
58 御供田遺跡
59 三箇遺跡
60 氷野遺跡
61 飯盛山城遺跡
62 北条東古墳
63 石切場跡
64 野崎城跡
65 北新町遺跡
66 大谷古墳群
67 大坂城残石
68 新田遺跡
69 墓谷古墳群
70 御領遺跡
71 城ヶ谷遺跡
72 寺川浜遺跡
73 野崎条里遺跡
74 竜間マロウ遺跡
75 中垣内東遺跡
76 若宮東遺跡
77 諸福辻ヶ堂遺跡
78 足立氏館跡
79 善根寺山遺跡
80 戎山古墳
81 善根寺遺跡
82 池端遺跡
1～4 門真市
5～20 四條畷市
78～82 東大阪市



第２図　周辺遺跡分布図（S=1/30,000）

第２章　調査に至る経緯

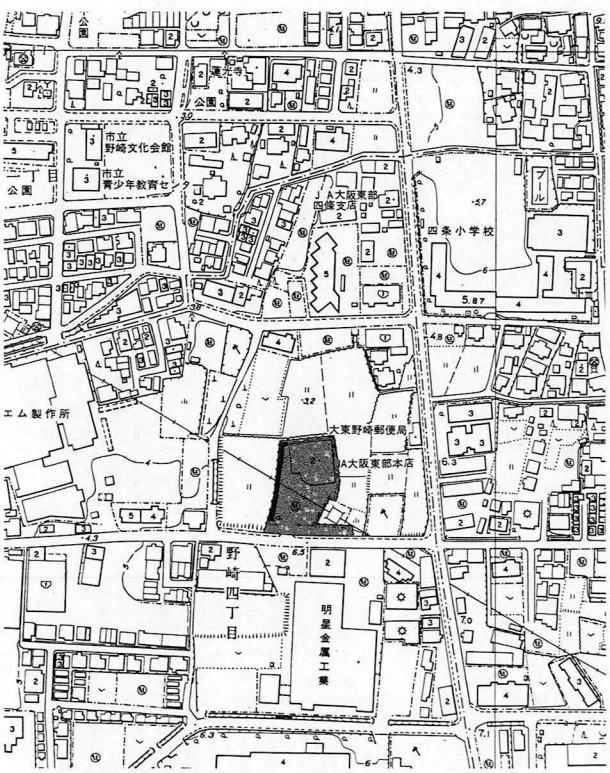
平成３年、大阪東部農業協同組合本店新築の計画が野崎４丁目１５８－１、－３、１６１－２番地においてなされ、それに対する埋蔵文化財の取り扱いについての問い合わせが大東市教育委員会（以下「市教委」という。）になされた。

当該地は、野崎条里遺跡の西側、また寺川浜遺跡の北側にあたる周辺地であったことから、事前に遺跡の有無の確認が必要である旨を指導し、これを受け大阪東部農業協同組合（当時組合長理事　向井恒太郎）（以下「事業主」という。）は平成３年１１月２２日付けで市教委に試掘依頼書を提出し、それをもって平成３年１２月１０日に建物部分の南北二箇所においてトレンチ調査を実施した。その結果、古式土師器、須恵器等の土器片が出土し、遺跡の存在が確認された。

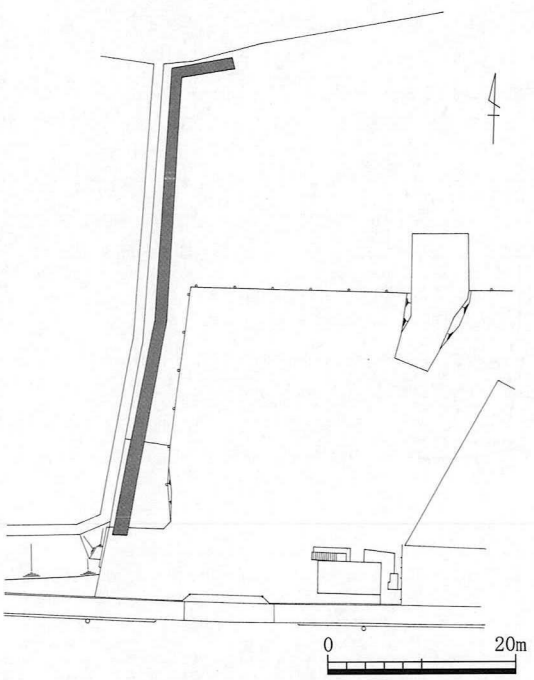
そのため、その具体的な取り扱いについての協議を開始し、今回の計画では遺跡への影響があるため、まず遺跡の現状保存のための設計変更の必要性を指導したが、事業主側においても計画時期の変更については困難であるとのことから、設計変更を検討することとした。

しかし、建物部分については、基礎構造の設計変更により遺跡への影響を回避できたが、西側境界沿いのブロック積擁壁部分については、設計変更は困難であるとの結論に至ったことにより、再度、その取り扱いについての協議を行った。

その結果、試掘後に周知の遺跡（野崎条里遺跡）として登録していたことから、設計変更された計画において、平成４年１月１０日付けで文化財保護法第５７条の２（現９３条）に基づく届出がされ、その後の協議において、遺跡に影響を及ぼすブロック積擁壁部分についての土木工事に対しては、記録保存を目的とする発掘調査を実施することで合意し、平成４年７月１５日付けで覚書を締結のうえ、市教委が発掘調査を受託して実施することとなった。



第３図　調査地位置図（S=1/5,000）



第４図　調査区（擁壁部分）位置図

第３章　調査成果

第１節　基本層序

調査の結果、基本的な層序は以下の通りである。

第Ⅰ層　盛土。層厚約１.８ｍを測る。

第Ⅱ層　近・現代の耕作土及び床土。耕作土は調査区南側、床土は部分的に認められる程度であった。層厚は耕作土が０.２ｍ前後、床土が０.０５ｍ前後を測る。この層までを機械掘削の対象とした。

第Ⅲ層　褐灰色砂質土。調査区全域に認められ、北側では２層に細分できる。層厚は約０.２～０.３ｍを測る。

第Ⅳ層　シルト～粘土の混合層で、鉄分を含む灰黄色粘質シルトが主体をなす。調査区北半部に認められ、層厚は約０.１～０.４ｍを測る。

第Ⅴ層　部分的に分層できるが、灰色土が主体をなす。調査区北半部に認められ、層厚は０.３ｍ前後を測る。

第Ⅵ層　５層程度に細分できるが、灰～灰黄色砂質土が主体をなす。部分的に灰白色微砂、粗砂が混じる。調査区南半部に認められ、層厚は約０.１～０.３ｍを測る。

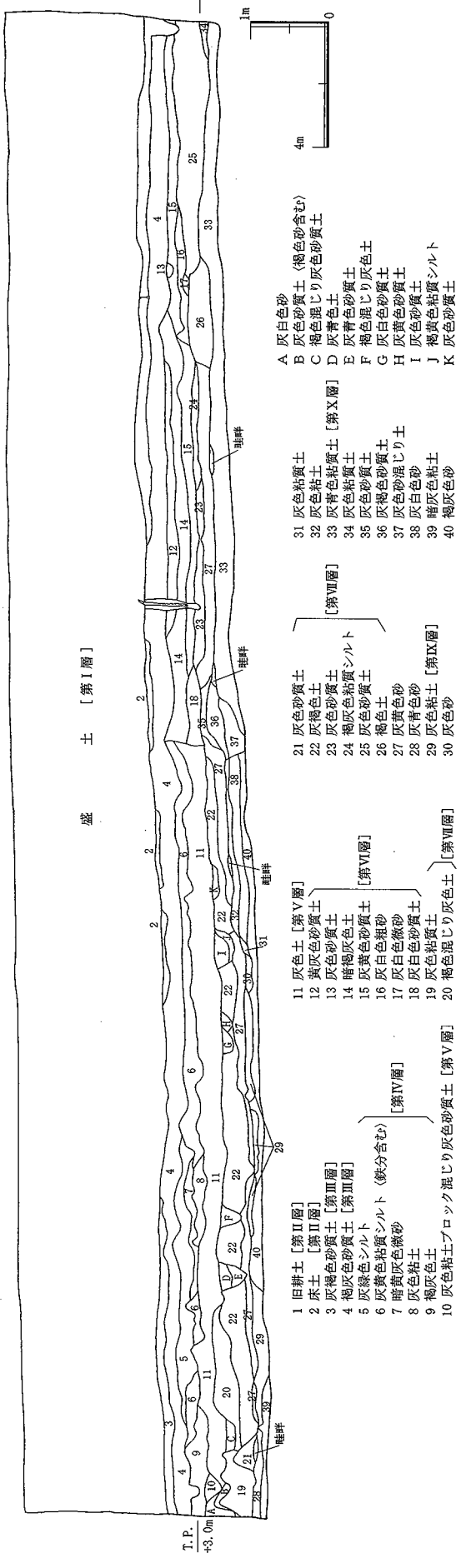
第Ⅶ層　灰～灰褐色砂質土、灰～灰褐色土。ほぼ調査区全域に認められ、第１遺構面のベース層になる。層厚は約０.１～０.４ｍを測る。

第Ⅷ層　灰黄色砂。１、２区を除いて認められ、第２遺構面の水田の上面に堆積するもので、氾濫の痕跡である洪水砂と思われる。層厚は約０.１～０.２ｍを測る。

第Ⅸ層　灰色粘土。調査区北半部に認められ、第２遺構面のベース層になる。層厚は約０.１～０.２ｍを測る。いわゆる考古学で言う地山層ではない。

第Ⅹ層　灰青色粘質土。調査区南半部に認められ、第２遺構面のベース層になる。いわゆる考古学で言う地山層ではない。

以下、確認トレンチを調査区南側（２区付近）



第５図　東壁土層断面図

及び北側（９区付近）に幅約1.5ｍ、長さ約2.0ｍ、深さ約1.5ｍの規模で掘削した。暗灰青色粘土が主体を占め、北側の確認トレンチからは古墳時代の遺物の出土が見られ、本調査対象以下においても遺跡の存在が確認された。

第２節　遺構と遺物

第１遺構面

基本層序第Ⅶ層をベース面として検出した。標高は調査区南端でT.P. ＋3.3ｍ前後。調査区北端で約T.P. ＋2.9ｍ前後を測り、北側に向かって傾斜している状況である。

遺構は溝、自然流路などが検出され、遺物では中世の瓦器、羽釜、瓦質土器などが出土している。

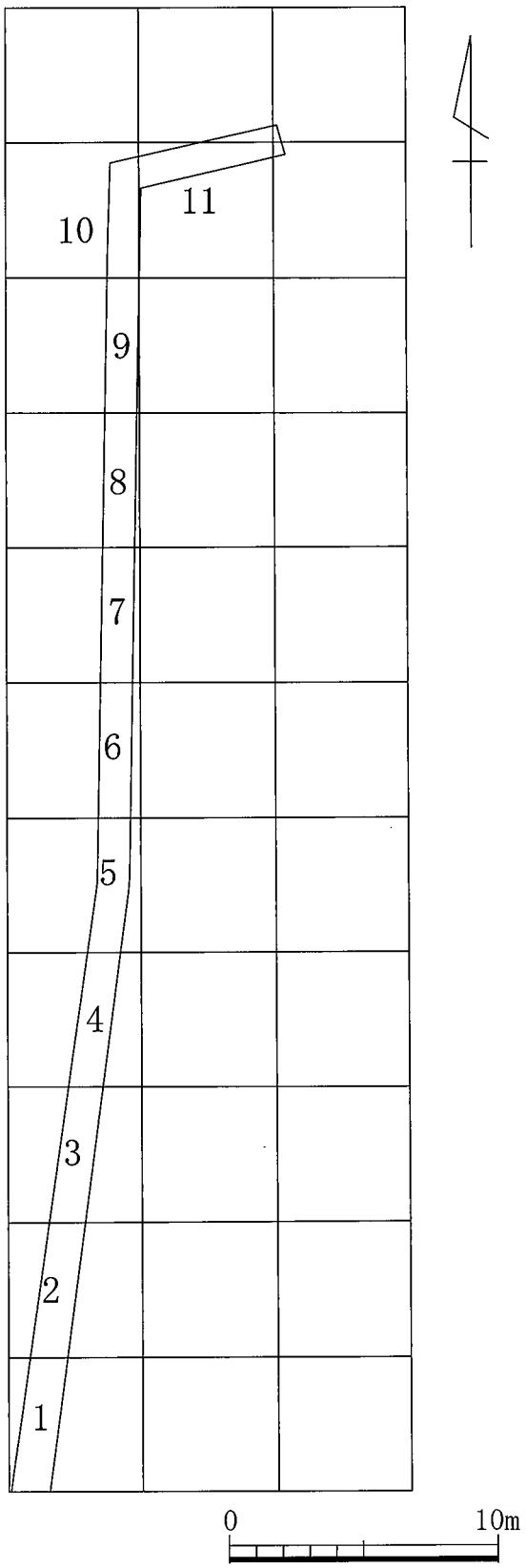
遺構・遺物の詳細については一覧表（第１表、第２表）で示している。

第２遺構面

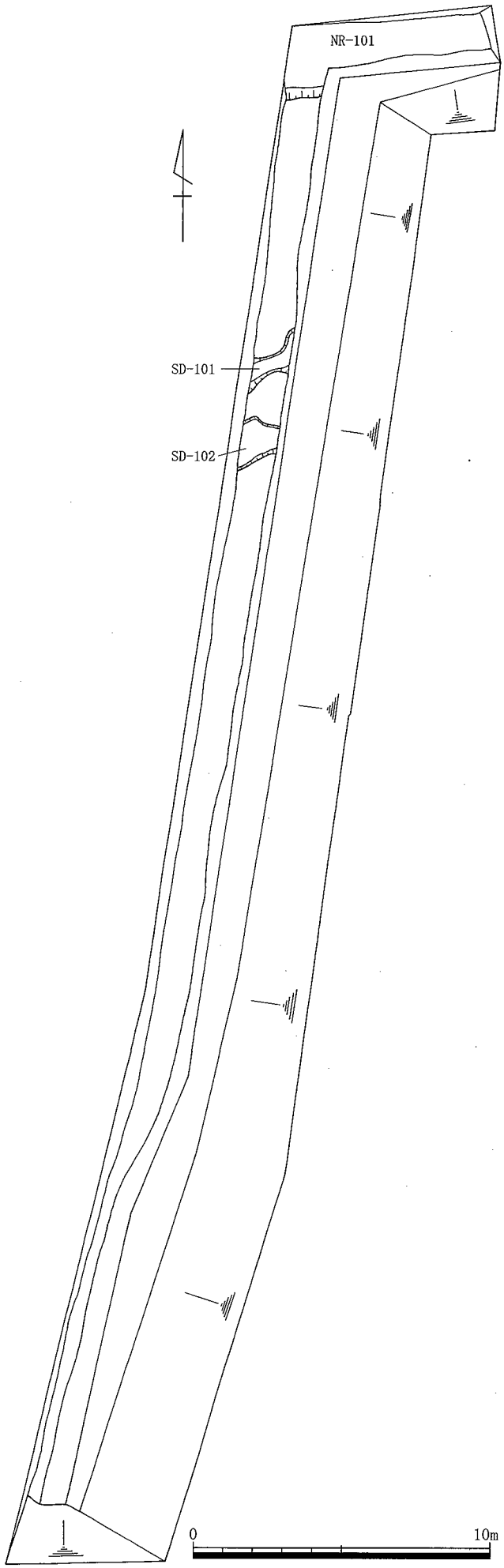
基本層序第Ⅸ・Ⅹ層をベース面として検出した。標高は調査区南端で約T.P. ＋3.0ｍ。調査区北端でT.P. ＋2.7ｍを測り、第１遺構面同様に北側に向かって傾斜している状況である。

遺構は溝、土坑、水田跡などが検出された。特に畦畔は遺存状態は良好で、遺物ついては図示し得るものはなかったが、土師器、須恵器などが出土している。

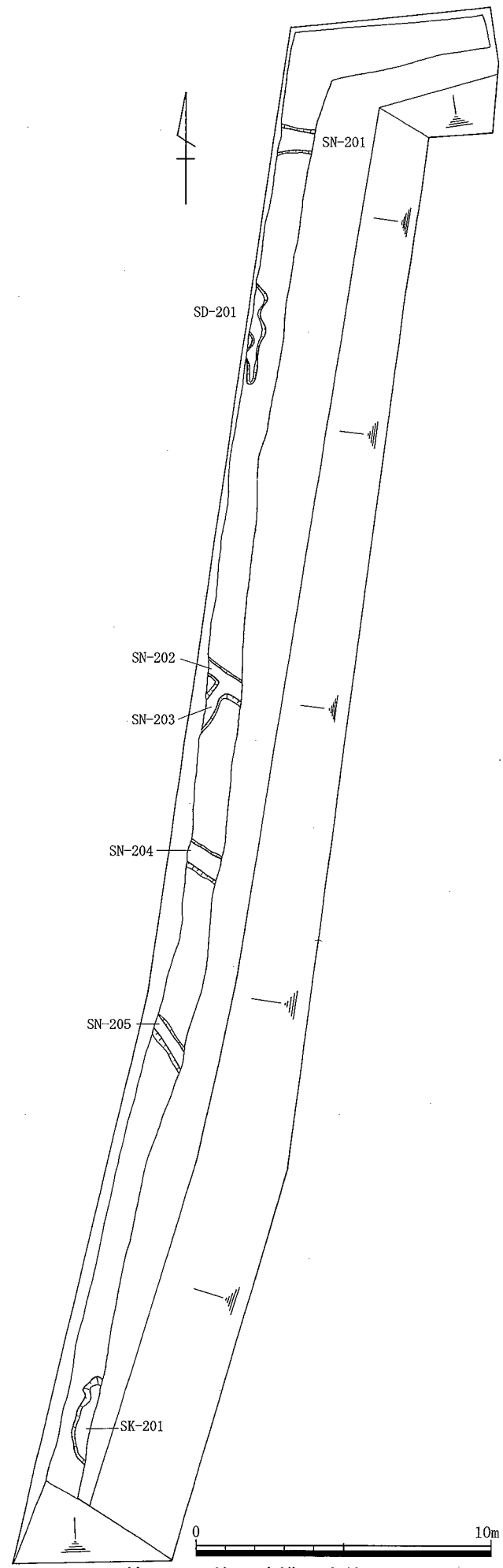
遺構・遺物の詳細については一覧表（第１表、第２表）で示している。



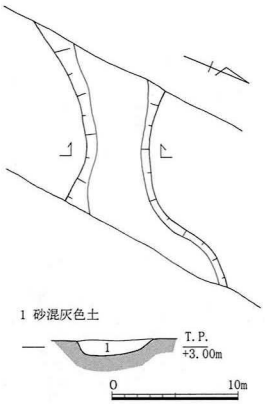
第６図　調査区区割図



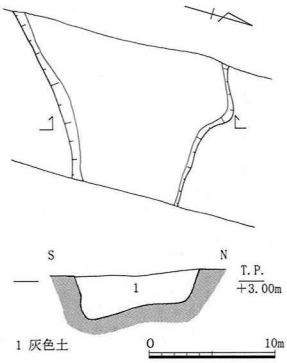
第７図　第１遺構面全体図



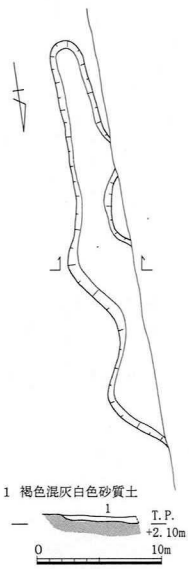
第８図　第２遺構面全体図



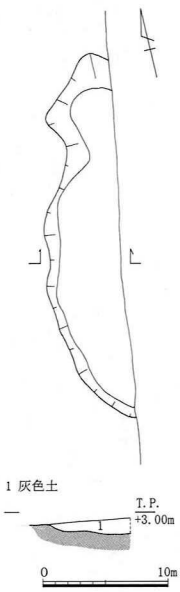
第９図　ＳＤ－１０１平・断面図



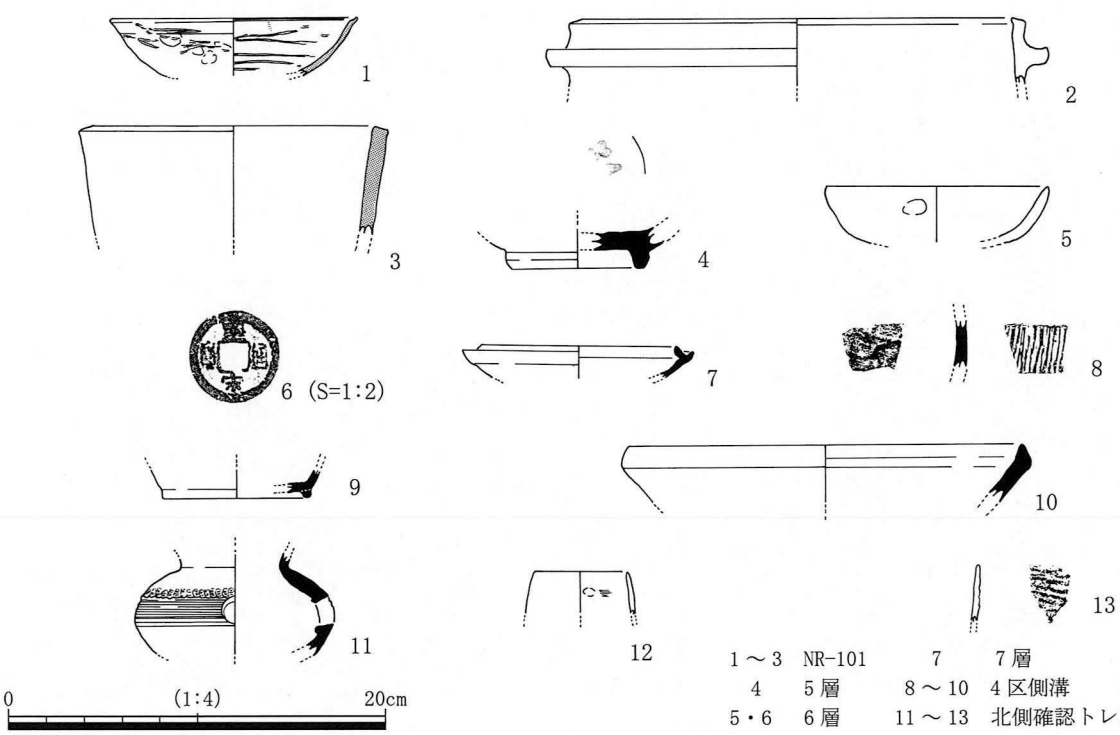
第 10 図　ＳＤ－１０２平・断面図



第 11 図　ＳＤ－２０１平・断面図



第 12 図　ＳＫ－２０１平・断面図



1～3　NR-101　　7　　7層
4　　5層　　8～10　4区側溝
5・6　6層　　11～13　北側確認トレンチ

第 13 図　出土遺物実測図

第３章　まとめ

今回の調査では野崎条里遺跡が西方にさらに広がることが確認できたとともに、計２面の遺構面を確認することができた。以下、その成果について述べる。

第１遺構面では溝、自然流路を検出した。遺構からは瓦器や羽釜などが出土していることから時期的には中世と考えられる。市域におけるこれまでの調査成果においては、北新町遺跡、御領遺跡などの集落跡以外では、通常、鋤溝と呼ばれる小溝群が検出され、耕作地であったことを示す事例が大半であるが、今回の調査においてはその痕跡を確認することもなく、自然流路のほか、溝の性格についても人為的なものとは見なしがたい部分もあり、おそらく当時においては空閑地的な地域であったと考えられる。

第２遺構面では溝、土坑、水田跡を検出し、畦畔の遺存状況も良好であった。上部の包含層からは古墳時代後期から飛鳥時代にかけての須恵器が出土し、調査区北側の確認トレンチにおける第２遺構面下層の堆積土から古墳時代中期から後期にかけての製塩土器や須恵器の瑕が出土している状況から、時期的にはおおよそ古墳時代後期の範囲内と考えられ、周辺一帯にこの時期の水田が営まれていた状況であったと考えられる。

今回の調査地は、中世では勿入淵（ないりそのふち）（広見池とも呼ばれ、近世では深野池、新開池となる。）、古墳時代後期では河内湖東岸にあたる。これまでの先学による勿入淵や近世の深野池の汀線の復元図などを考慮すると、時代を問わず今回の調査地と汀線との距離については、おおよそ 200 m前後を想定できるものと考えており、時期的な汀線の変化についても大きな齟齬はないものと思われることから、今回の調査成果は、湖や池などの水辺という地理的影響を大きく反映していると思われる。

特にこの地域一帯は、扇状地から河内湖、勿入淵などの東岸までの距離が非常に狭小な場所で、本市における大きな地域的特性とも言える。今後このような土地環境を、どのように利用、開発し地域的景観が形成されてきたのか把握することが、市域の遺跡の大半を残す生駒山西麓における歴史的具体像を解明するうえで重要であると思われる。

	遺構番号	遺構面	検出地点	形態	規模（m）	埋　土	出土遺物	備　　考
1	ＳＤ－101	第１遺構面	８・９区	溝 東北東	長さ：1.3 幅：1.4 深さ：0.13	砂混じり灰色土	土師器・須恵器・瓦質土器・陶器	
2	ＳＤ－102	第１遺構面	８区	溝 東北東	長さ：1.2 幅：1.2 深さ：0.27	灰色土	土師器・須恵器・陶器・瓦	
3	ＮＲ－101	第１遺構面	10・11区	溝 東西	長さ：6.5 幅：2.5 深さ：0.42	灰白色砂 褐色混淡灰色粘質土 灰白色粗砂	土師器・須恵器・瓦質土器・瓦器・土師羽釜	
4	ＳＤ－201	第２遺構面	８・９区	不定形	長さ：3.4 幅：0.55 深さ：0.11	褐色混灰白色砂質土		
5	ＳＫ－201	第２遺構面	１区	不定形	長さ：3.0 幅：0.6 深さ：0.07	灰色土	須恵器	
6	ＳＮ－201	第２遺構面	10区	畦畔 東西	長さ：11.0 幅：10.5 高さ：0.02	褐色土		
7	ＳＮ－202	第２遺構面	６区	畦畔 東南	長さ：1.2 幅：0.6 高さ：0.06	灰青色粘土・シルト（斑点状に褐色の部分あり）		
8	ＳＮ－203	第２遺構面	６区	畦畔 南北	長さ：1.25 幅：0.55 高さ：0.03	灰青色粘土・シルト（斑点状に褐色の部分あり）		
9	ＳＮ－204	第２遺構面	５区	畦畔 東南東	長さ：1.1 幅：0.7 高さ：0.09	灰青色粘土・シルト（斑点状に褐色の部分あり）		
10	ＳＮ－205	第２遺構面	４区	畦畔 南東	長さ：1.75 幅：0.4 高さ：0.01	灰青色粘土・シルト（斑点状に褐色の部分あり）		

第１表　検出遺構一覧表

挿図番号	器　種	出土地点	法量（cm）	色　調	焼　成	胎　土	技法の特徴	備　　考
1	瓦器埦	NR-101	口径：(13.0) 器高：(3.0) 底径：—	外：N5/0　灰白 内：N5/0　灰白 断：—	良好	精良	外面：ナデ・ミガキ 内面：端部に沈線１条・同心円状暗文	13 世紀後半 大和型
2	瓦質羽釜	NR-101	口径：(23.2) 器高：(3.6) 底径：—	外：5Y4/1　灰 内：5Y4/1　灰 断：5Y8/1　灰白	良好	精良	外面：ナデ 内面：ナデ	15 世紀
3	瓦質土管	NR-101	口径：(15.2) 器高：(6.0) 底径：—	外：5Y8/2　灰白 内：5Y3/1　オリーブ黒 断：5Y8/2　灰拍	良好	精良	外面：ナデ 内面：ナデ	江戸時代
4	青磁椀	５層	口径：— 器高：(2.0) 底径：(3.3)	外：5Y5/3　灰オリーブ色 内：7.5YR5/3　にぶい褐色 断：5Y8/1　灰白	良好	精良	外面：施釉 内面：施釉	龍泉窯系
5	土師器椀	６層	口径：(11.6) 器高：(3.0) 底径：—	外：10YR5/4　にぶい黄褐色 内：10YR6/3　にぶい黄橙色 断：10YR4/1　褐灰色	良好	直径１㎜以下の石英・長石	外面：ナデ 内面：ナデ	奈良時代
6	皇宋通寶	６層	直径：2.4 厚さ：0.15	外：— 内：— 断：—	良好	精良	外面：— 内面：—	北宋銭 1038 年
7	須恵器杯身	７層	口径：(10.2) 器高：(1.8) 底径：—	外：N8/0　灰白 内：N8/0　灰白 断：N8/0　灰白	良好	精良	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	６世紀末
8	須恵器甕	４区側溝	器高：(2.4) 厚さ：0.6	外：N3/0　暗灰色 内：N5/0　灰色 断：7.5Y6/1　灰色	良好	精良	外面：タタキ 内面：ナデ	小片のため不明
9	須恵器杯身	４区側溝	口径：— 器高：(1.5) 底径：(7.2)	外：10Y7/1　灰白 内：10Y7/1　灰白 断：10Y7/1　灰白	良好	精良	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	奈良時代
10	東播系須恵器捏鉢	４区側溝	口径：(20.8) 器高：(3.0) 底径：—	外：10Y6/1　灰 内：10Y6/1　灰 断：10Y7/1　灰白	良好	精良	外面：ナデ 内面：ナデ	12 世紀中葉
11	甑	北側確認トレンチ	口径：— 器高：(5.2) 底径：—	外：5Y6/1　灰色 内：N4/0　灰色 断：N6/0　灰色	良好	精良	外面：列点文・沈線・穿孔・カキメ 内面：回転ナデ	５世紀
12	製塩土器	北側確認トレンチ	口径：(4.8) 器高：(2.2) 底径：—	外：10YR8/2　浅黄橙 内：10YR8/2　浅黄橙 断：N8/0　灰白	良好	精良	外面：ユビオサエ・ナデ 内面：ユビオサエ・ナデ	５世紀後半
13	製塩土器	北側確認トレンチ	器高：2.9 厚さ：0.3	外：10YR7/4　にぶい黄橙 内：10YR7/4　にぶい黄橙 断：2.5Y6/1　黄灰	良好	精良	外面：タタキ 内面：ナデ	５世紀後半

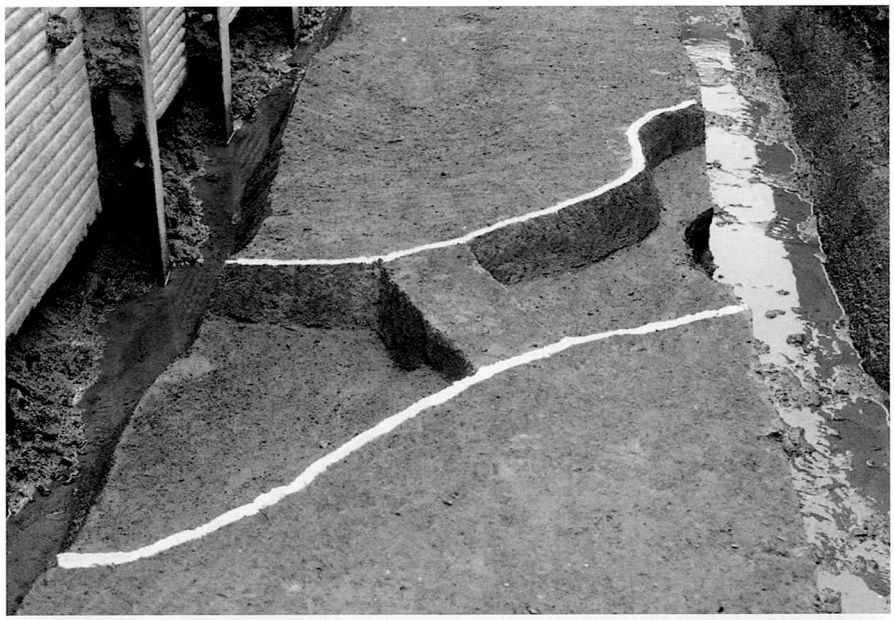
第２表　出土遺物一覧表

図版１　遺構（１）

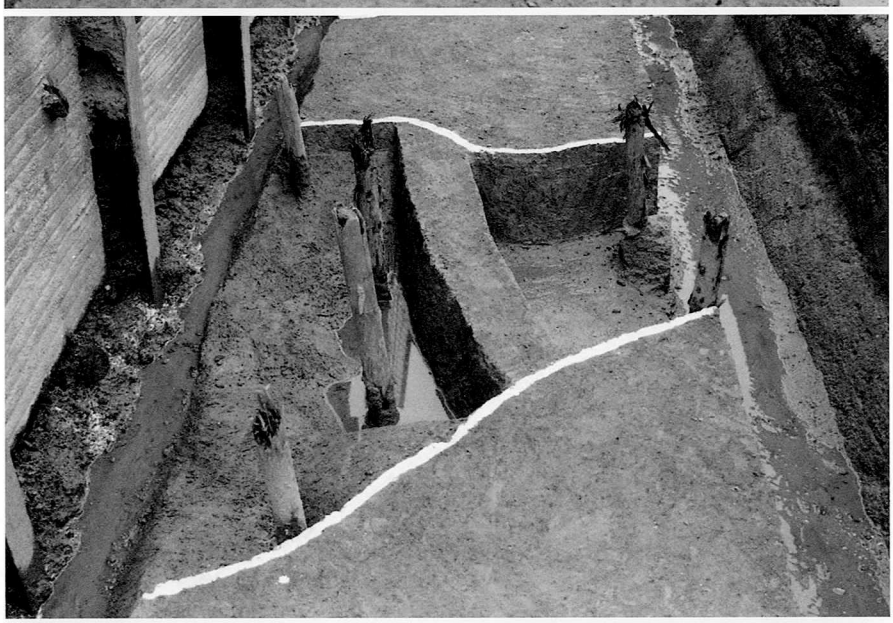
１．第１遺構面全景
（南より）

２．第１遺構面北側
（南東より）

図版２　遺構（２）



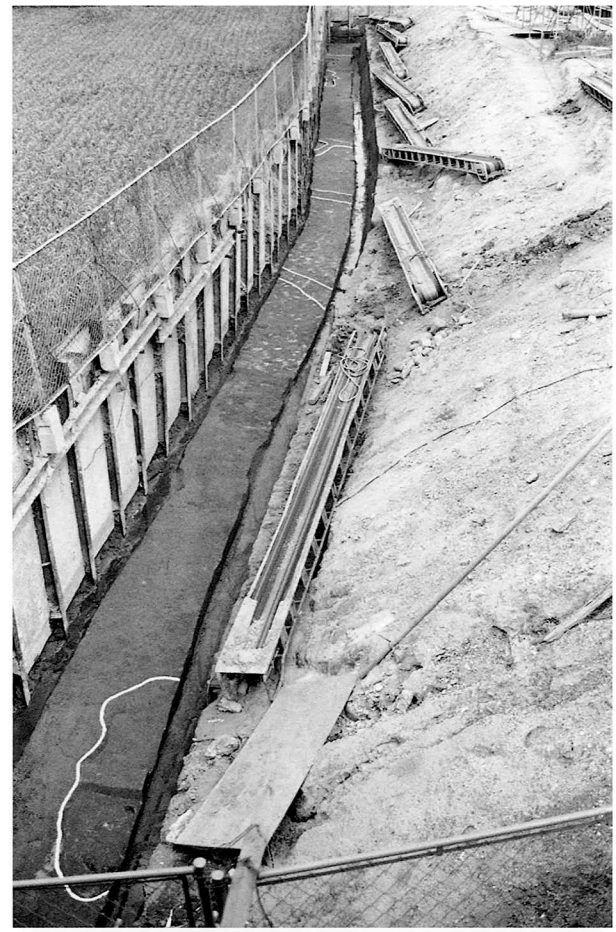
１．ＳＤ－１０１
（南より）



２．ＳＤ－１０２
（南より）

３．ＮＲ－１０１
（南より）

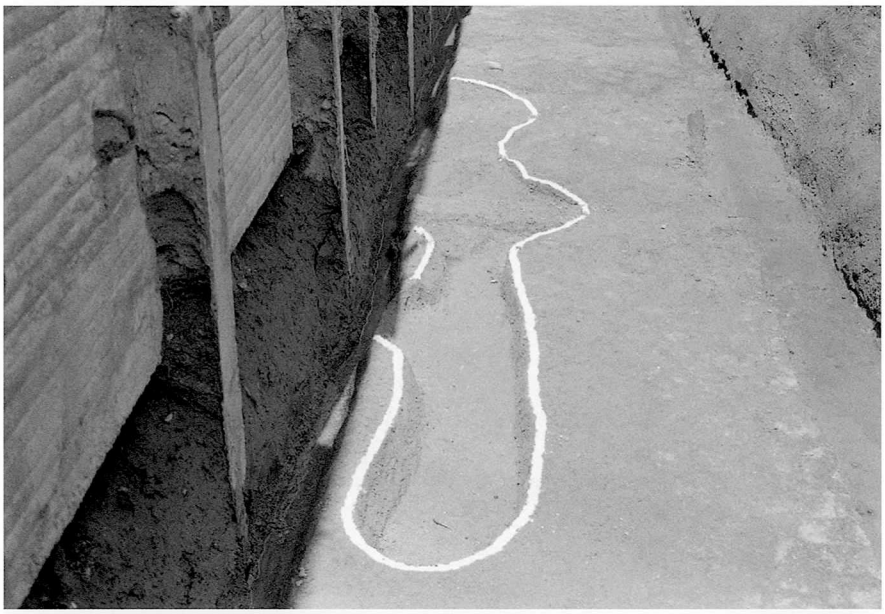
図版３　遺構（３）



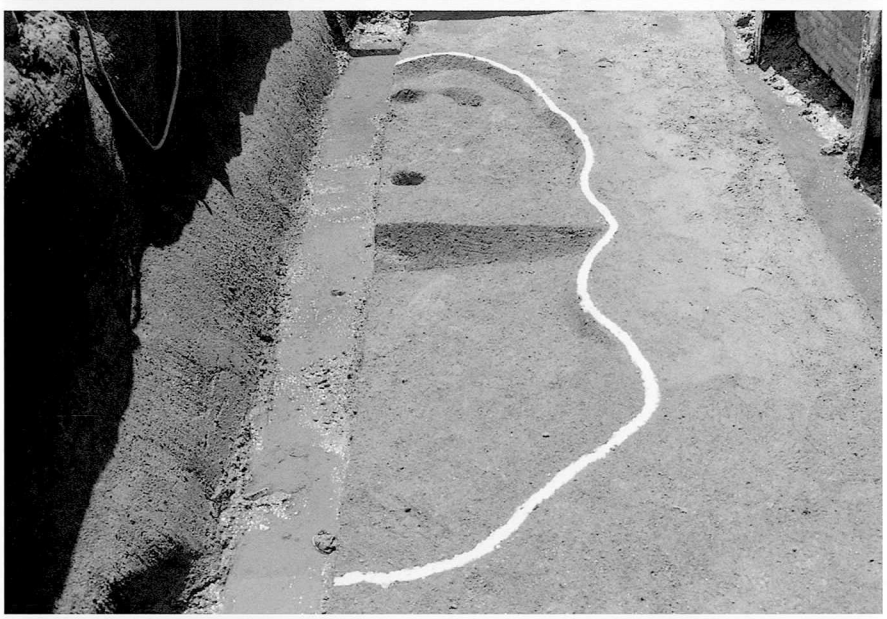
１．第２遺構面全景（南より）

２．第２遺構面全景（北より）

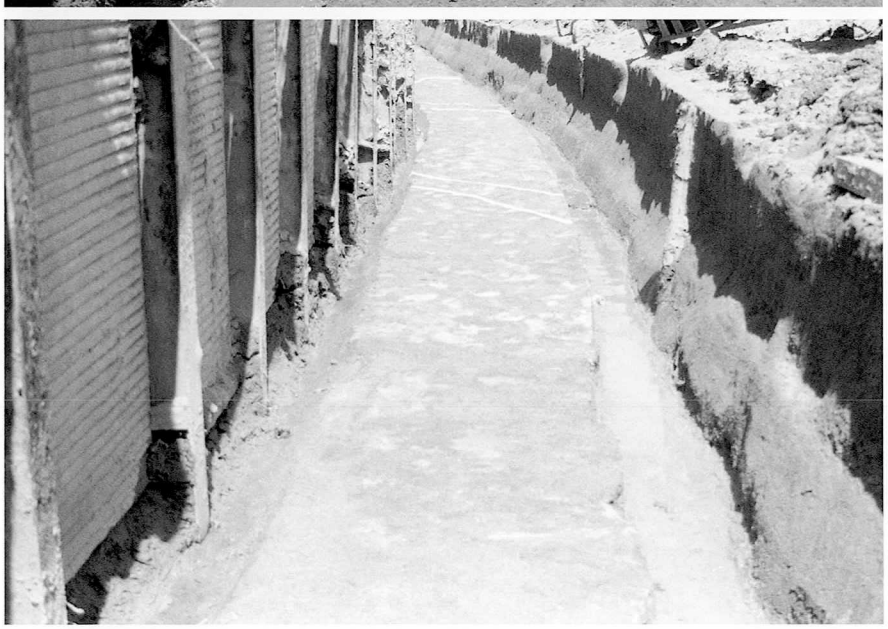
図版４　遺構（４）



１．ＳＤ－２０１
（南より）



２．ＳＫ－２０１
（北より）



３．水田跡
（南東より）

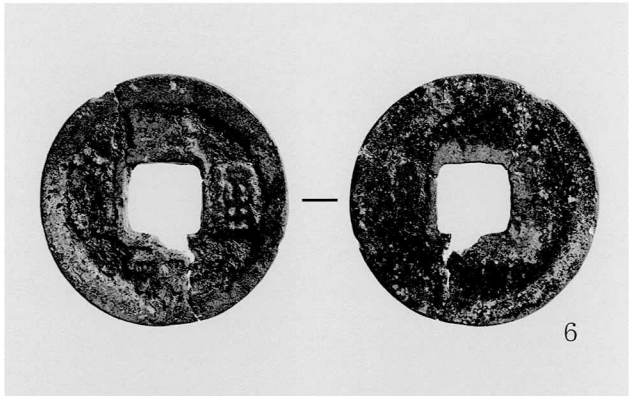
１．畦畔
（ＳＮ－２０２、
ＳＮ－２０３）

２．畦畔
（ＳＮ－２０５）

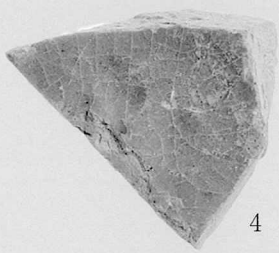
３．東壁土層断面

図版6　出土遺物

1

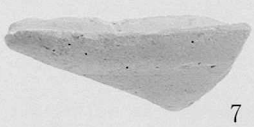

6

2


4

5

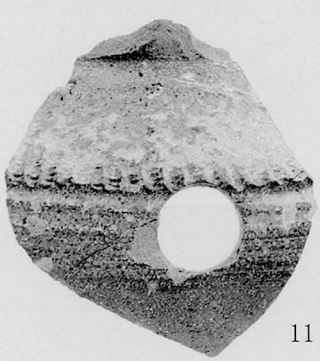
3

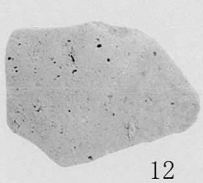

7

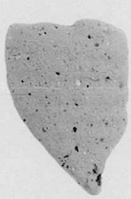
8

9

10


11


12


13

報告書抄録

ふりがな	のざきじょうりいせき
書名	野崎条里遺跡Ⅰ
副書名	大阪東部農業協同組合本店建設（擁壁設置工事）に伴う発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	大東市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第３６集
編著者名	中逵健一
編集機関	大東市教育委員会
所在地	〒574－0076　大阪府大東市曙町４番６号　　TEL　072－870－9105
発行年月日	平成２５（２０１３）年１０月３１日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
のざきじょうりいせき 野崎条里遺跡	おおさかふ 大阪府 だいとうしのざき 大東市野崎 ４丁目 ４番４７号	27218	53	34度 42分 55秒	135度 38分 27秒	平成４年８月３日 ～９月４日	133.4㎡	大阪東部農業協同組合本店建設に附帯する擁壁設置工事

ふりがな 所収遺跡名	種別	主な時期	主な遺構	主な遺物	特記事項
のざきじょうりいせき 野崎条里遺跡	空閑地	中世	溝、自然流路	瓦器、瓦質土器 土師器、須恵器	
	生産	古墳時代後期	溝、水田跡	土師器、須恵器	

印刷物番号
２５－３８

大東市埋蔵文化財調査報告第３６集

野 崎 条 里 遺 跡 Ⅰ

－大阪東部農業協同組合本店建設（擁壁設置工事）に伴う発掘調査報告書－

２０１３年１０月３１日発行

編集・発行　大東市教育委員会

〒574－0076　大東市曙町４番６号

TEL．072－870－9105

印刷・製本　株式会社　地域文化財研究所

〒578－0941　東大阪市岩田町１丁目17番９号

TEL．072－968－7321